

## 会員の方々の近況

### 黒川高秀さんの近況報告

二十一回生 平田 担

それは黒川高秀さんが千里山会の代表幹事になられて直ぐの事でした。2002年10月、病院勤務から徒歩での帰宅途中、無謀運転の車による事故に遭遇されてしまいました。爾来、奥様と二人三脚で病院での療養とリハビリの毎日が続けておられます。私は千里第二小学校5・6年生時代を同級生として過ごしたのを機に今日に至るまで親しくお付き合いをさせて貰っているのですが、彼が医師としての現役時代には私自身の事に限らず家族・知人の病気の事で随分と相談に乗って貰いお世話になりましたし、その生き方には、医学者として「医は仁なり」との言葉に正面から取組んでおられる心意気をひしひしと感じさせられるものがありました。

今回の事故で入院されてからは時間を見つけてはお見

舞いに参上しています。但し、名目は「お見舞い」ですが、実際はご夫妻から生きる事の尊さを教えて頂くために「黒川塾」に通っていると云うのが本音です。ご夫妻のご了解を得ましたので、近況のご報告をさせていただきます。

黒川さんは事故で強い打撲を受けられたものの外傷はありませんでしたが、直後に髄膜炎を併発した結果、身体がほとんど動かなくなり発声も不可能となってしまわれました。頭脳の活動も止まってしまったかと思われる状態でした。医師団も一旦はそう判断した様です。処が、奥様が懸命に介護をしておられるうちにごく僅かな意思表示らしいものを感じられ、頭脳が働いていることに気づかれたのです。しかも次第にはつきりと判ったのですが、頭脳の働きは全く正常である事、視力と聴力も残っている事が判りました。そして身体の中で僅かながら右手の親指だけは本人の意思で動かせる事も判ってきました。通常の病院の治療や介護では見過ごしてしまう事を奥様が発見されたのでした。医師団も驚いたそうです。

試行錯誤の末、彼が右手にブザーを持つ事で、夫人との間で会話が復活しました。例えば、夫人が「ア、

「カ、キ、ク、ケ、コ」と声を出してゆくとブザーが鳴って先ずひとつ文字が決まります。こうしてカナを積み重ねてゆき彼の云いたいことが伝わります。この作業は大変ですが、夫人が忍耐強く毎日「ア、カ、サ、タ、ナ」を繰り返して会話をしておられます。

この会話法から夫人が記録された彼の言葉の一部を此処に披露します。

2005年に頂いたメモから。(この頃は歌をよく作られています)

野辺の淵よりはい上がり 秋の静けさ

白梅や、何に託して我死を越えり

秋祭り はしやく我が妻 共に喜ぶ (車椅子で夫人と散歩時)

2006年11月。東大整形外科教室100周年祝辞。(大

学現役時代、日本整形外科学会の理事長をされて  
いました)

「我々東大整形外科教室がこの度百周年を迎え本当に慶ばしい」と存じます。

田代義徳先生が教室を立ち上げられてから現在まで先輩方がたゆまない努力を積み重ねられてきた結果です。これは東大整形外科教室の貴重な宝物です。それを忘れないでください。

論理と理論を間違えずに研究を続けてください。未来を信じて望みを持ってとらわれ ず乗り越えて努力を続けてください。

本質を間違えないでください。

愛と奉仕は医学にとって一番大切な基本です。病院は今後患者さんのため忍耐と寛容が大切だと思います。世の中を幸せにするためには優しさと奉仕がとても大切だと思います。

東大整形外科教室に必要なものはよく吟味された論理的思考とよく身についた本質のほかありません。我々に課された今後の役目は和を大切にして成し遂げてください。

立派な教室に更に発展するよう祈っています。」

夫人は事故以来、毎日病院に通っておられその看病は一年365日休みなし、今年の10月で6年になります。並大抵の気持ちで出来る事ではありません。「奥さ

んに感謝しろよ」と病室を訪れると私は彼に云ってききました。彼も夫人に対し何度も何度もブザーを使ってお礼を云うそうです。処が、夫人はこの様に云われるのです。「感謝しているのは私も同じです。主人は以前にも増して大切な相談相手ですし、生きる上での強い支えです。主人が頑張ってくれている有難さを感じみみと感じているのです。今までは人生で本当に大切な事が何なのか判っていませんでしたが、それが見えて来た気がしています。主人も患者の立場になって、医療のあり方を見直し、医学会に提言をする機会を得たと今の境遇を前向きに捉える様になっております。」

思いもよらぬ事故のために厳しい環境に置かれていながらも、ご夫妻が夫婦の絆の大切さ、生命への畏敬の念、医学に対する真摯な姿勢を病室から世に発信しておられる様子に触れ、私は病院を訪問する度に感動と力を与えて頂いています。

以上、ご報告です。